

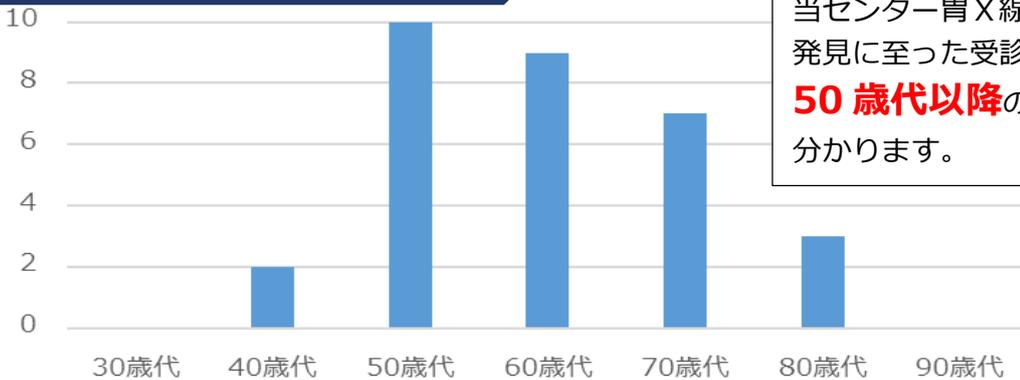
知っておきたい胃がんのこと

編集・発行 野村病院 予防医学センター

現在、日本において胃がんの罹患数・死亡数は減少傾向にはありますが、死亡数の順位（2021年）では依然として肺がん、大腸がんに次ぐ第3位です。年齢別にみると罹患率は50歳代から多くなっていきます。胃がんの原因は塩分の高い食品の摂取、喫煙、ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の感染が挙げられます。今回は受診者の方からの質問も多い「ピロリ菌」にスポットを当てていきたいと思えます。

当センターでの胃がん発見者数

※2015～2020年度当センター人間ドック受診者のデータを元に作成



当センター胃X線・胃カメラにて胃がん発見に至った受診者の年齢別のグラフです。

50歳代以降の人数が多いことが分かります。

検査方法

※厚生労働省では胃カメラは**50歳以上**の方は**2年に1回**、胃X線は**40歳以上**の方は**1年に1回**の検診が推奨されています。

野村病院予防医学センターで受けられる検査

上部消化管 X 線検査

発泡剤（胃をふくらませる薬）とバリウム（造影剤）を飲んで、食道から胃、十二指腸までをX線写真で映し胃の粘膜を観察する検査です。

上部消化管内視鏡検査

口または鼻から内視鏡を挿入し、上部消化管（食道・胃・十二指腸）を観察します。「胃カメラ」と言われるものです。必要時生検（組織を採取する）を行う場合もあります。

ピロリ菌について

ピロリ菌とは胃の粘膜に住みつく細菌で大半は幼少期に感染します。日本におけるピロリ菌感染率は、衛生状態が悪い時代に乳幼児期を過ごした世代に高く、井戸水を飲まなくなり、新鮮で清潔な食べ物を口にするようになった若い世代は低下しています。40歳代の感染率は1990年代に60%でしたが、2010年代は20%にまで低下しています。ピロリ菌に感染すると慢性胃炎や萎縮性胃炎が進行し胃がんの発生につながります。

ピロリ菌 Q&A



ピロリ菌に感染しているかは、どういう検査でわかるの？

胃カメラを用いた検査、尿素呼吸試験、血液・尿・便を用いた検査があります。当センターでは**便による検査でピロリ菌の検査**を行っています。

ピロリ菌の除菌はどうやってするの？

胃カメラ検査でピロリ菌感染が疑われる所見を確認した後、7日間除菌薬を飲みます。4週間以上間を空けた後、「評価」としてピロリ菌感染の有無を確認して治療終了となります。除菌しきれない場合には、薬剤を変更してさらに7日間内服します。除菌薬を内服後「**評価**」まで**することが大切です**。

ピロリ菌を除菌したら胃がんにはならないの？

胃がんのリスクは下がりますが、**胃がんにならないわけではありません**。定期的に胃がん検診を受けましょう。



最後に

ピロリ菌に感染している事が分かったら、速やかに除菌し胃がんのリスクを減らしましょう。また、検査の結果で紹介状が発行になった場合は受診をしましょう。

ヘルスアップサポートでは健康に関する情報発信中です。興味がある方は是非一度ご覧になって下さい。

